

1. 事業の位置付け

事務事業名	介助員派遣事業		
事業担当	学校教育部 子ども教育相談センター		
予算科目	01-100107-040000	事業種類	○ ハード      ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	04	4 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、保護者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
障がいのある子どもたちが、学習活動や日常生活での支援を受け、学校（園）生活を円滑に過ごしています。		障がいのある子どもたちが学校（園）生活を円滑に送れるようにするため、学習活動や日常生活を支援する介助員を派遣します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	介助員派遣人数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			54	54	56			
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	介助員に係る学校評価						単位	点
	説明・算定式	「介助員の派遣により効果があった」とする評価（5段階）の、派遣している全小中学校の回答の平均							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			4	4.1	4.2			
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成19年度の主な取組と成果 介助員の派遣により、きめ細かな指導の支援に結びついた。									
平成19年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	障害の多様化、重度化する中で、きめ細かな指導が必要であり、保護者、学校からの要望も強い。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続して派遣することにより、きめ細かな指導が実現できる。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	教員の追加配置が難しい状況の中、きめ細かな指導ができるように学校を支援していく意義は大きい。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	子どもの状態、学級の状況等を考慮し、有効な活用が図れるようにしていく必要がある。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

#### 今後に向けた課題の分析

教員の追加配置が難しい状況の中、障害のある子どもたちへの支援のために、本事業を充実していくことは必要不可欠である。

### 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				障害児介助員の派遣	障害児介助員の派遣	障害児介助員の派遣		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	48,223	48,447	53,294	0	0
事業費 (A)		0	0	48,223	48,447	53,294	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	99.54				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.55	0.55	0.55	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	4,616	4,616	4,616	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	52,839	53,063	57,910	0	0

### 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

#### 平成21年度の事業の方向性

● 現状の規模で継続    ○ 拡大して継続    ○ 縮小して継続    ○ 廃止    ○ 休止    ○ 終了    ○ 他事業と統合

#### <判断理由>

障害のある子どもたちが学校(園)生活を円滑に送れ、きめ細かな指導ができるように学校を支援していくことが必要である。

#### 平成21年度の実行方針

障害のある子どもたちが学校(園)生活を円滑に送れ、きめ細かな指導ができるように学校を支援していくため、介助員の派遣を行っていく。

#### 課長コメント

障害が多様化、重度化する中、介助員を派遣することで障害のある児童生徒のきめ細かな指導が可能となり、効果は上がっている。保護者や学校からの強い要望もあり、本事業の継続は必要であると考えます。